

授業科目(ナンバリング)		総合的な学習の時間の指導法 (QA324)		担当教員 担当形態		浦郷 淳 単独					
教員免許状取得 のための選択の別		必修		単位数	1単位	開講 年次	3年	展開 方法	講義	開設 時期	前期
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目									
各科目に含める ことが必要な事項		総合的な学習の時間の指導法									
授 業 の ね ら い										アクティブ ラーニング の 類 型	
○総合的な学習（探究）の時間の意義や各学校での目標の設定の際の考え方を理解する。 ○総合的な学習（探究）の時間の指導計画の考え方を理解するとともに必要な基礎的な能力を身に付ける。 ○総合的な学習（探究）の時間の実践と評価に関する考え方及びその留意点を理解している。										①④⑥	
ホスピタリティを 構成する能力		学生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・ 方法			評価 比率	
専門力		○学習指導要領での総合的な学習（探究）の時間の意義や各教科等を繋いで課題解決にあたる能力の必要性を理解している。 ○総合的な学習（探究）の時間に行う単元の編成ができる。					定期試験			40%	
情報収集、 分析力		○各地における総合的な学習の時間の実践例を収集し、分析する。 ○各教科等との関連を調査し、それらを繋ぐ活動を組むことができる。					予習課題			30%	
コミュニケーション 力		○調査を基に単元編成について、グループで話し合うことができる。 ○単元のテーマについて校内、校外の人との意見交換ができる。					グループワーク での参加状況			10%	
協働・課題解決力		○単元の編成等にあたって、グループで協力する事ができる。 ○与えられた課題を、独りで或いは協働して解決を図ることができる。					グループワーク での参加状況			10%	
多様性理解力		○子どもたちの多様性を理解し、支援する事ができる。 ○子どもたちの多様性を理解し、認めた上で、評価する事ができる。					グループワーク での参加状況			10%	
出 席							受 験 要 件				
合 計							100%				
評価基準及び評価手段・方法の補足説明											
総合的な学習（探究）の時間は、課題を自己のものとして捉え、探究することが中心となる学習によって組み立てられている。従って、目標の達成にあたっては、主体的に取り組む教員が必要である。その観点の評価の基盤となる。予習課題に関しては毎回コメントをつけて返却する。											
授 業 の 概 要											
本授業のねらいを達成するためには受講生が主体的に本授業に取り組むことが不可欠である。このために、予習課題を課し、それをもとに授業を進める（予習課題は授業前の2日前までに担当教員に提出する）。コミュニケーション力や協働・課題解決力、及び、多様性理解力の育成のために、受講生を4名程度に分け、グループワークを行う。予習課題は、その班内での意見交換に用いられる。従って、予習課題未提出の場合は、討議に加われない可能性があることを十分に理解する必要がある。さらに、単元の編成は各グループでの作業になるため、各グループ構成員の意思疎通を十分に行える人間関係を培っておく必要がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。											
教 科 書 ・ 参 考 書											
教科書：文部科学省（2022）：「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）」及び 文部科学省（2017）：「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編」 ※但し、高校の免許種のみ取得希望者は以下の教科書 文部科学省（2023）：「今、求められる力を高める総合的な探究の時間の展開（高等学校編）」及び 文部科学省（2018）：「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編」 参考書：藤原さと（2020）：「探究」する学びをつくる、平凡社 指定図書：文部科学省/国立教育政策研究所（2021・a）（2020・b）：a：「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料・高等学校・総合的な探究の時間」 b：「中学校・総合的な学習の時間」											
授業外における学修及び学生に期待すること											
総合的な学習の時間の創設の背景を考えたとき、この時間に行われる学習は、未来社会で生き抜くために必要な資質・能力を育成する必要がある。この目標達成を考えると、学習にあたっては生徒の主体的な取り組みが前提となる。そして、この学習を進めるためには、従来からの教科学習の知識の活用やそれらを繋ぎ合わせる能力も必要となる。このように考えると、総合的な学習の時間を担当する教員には上述した資質・能力が備わっていることが不可欠である。このことを自覚して、予習課題に取り組み、授業でのグループ討議に積極的に加わる受講生であってほしい。											

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	総合的な学習（探究）の時間とは	小学校から高等学校までの総合的な学習の時間の内容を思い出して発表するとともに総合的な学習の時間の意義を児童・生徒の立場から考える。	予習課題：生活科創設の経緯や総合的な学習の時間の背景を調べ、まとめる。
2	生活科の創設から総合的な学習の時間へ	予習課題を基に、総合的な学習の時間が創設された背景を考えるとともに、学校教育における総合的な学習の時間の意義を理解する。	予習課題：学習指導要領における総合的な学習（探究）の時間の意義等をまとめる。
3	学習指導要領における総合的な学習（探究）の時間のねらい	予習課題を基に、中学校及び高等学校の学習指導要領に記載された総合的な学習（探究）の時間のねらいや実践にあたっての留意点等を話し合い、理解を深める。	予習課題：総合的な学習の時間の実践例を調べ、その意図等をまとめる。
4	総合的な学習の時間の実践例に学ぶ	予習課題を基に、総合的な学習の時間の実践例を出し合い、それらのねらいや実践における工夫等を話し合い、理解する。	予習課題：自己を考えることができるテーマを探し、例示してまとめる。
5	自己を考えることができるテーマを探す	予習課題を基に、自己を考えることができるテーマにはどのようなものがあるかを話し合い、幾つかのテーマに絞る。そして、各班が担当するテーマを決める。	予習課題：担当するテーマの単元を編成するための調査を行い、まとめる。
6	総合的な学習（探究）の時間の単元編成（1）	予習課題を基に、自己を考える単元の編成に向けた意見交換を行い、その結果を生かして単元編成を具体的に行う。	予習課題：班の単元編成を完成させ、そのねらい等を発表できる形にまとめる。
7	総合的な学習（探究）の時間の単元編成（2）	予習課題を基に、各班が考案した単元のねらいや実践にあたっての留意点等を発表する。そして、各単元に共通する要素を理解する。	予習課題：総合的な学習（探究）の時間の評価のあり方について調べ、纏める。
8	総合的な学習（探究）の時間の評価	予習課題を基に、総合的な学習（探究）の時間の評価のあり方について議論し、理解を深める。	復習課題：総合的な学習（探究）の時間の意義とそれを実施する教員の役割を纏める。
9	定期試験	筆記試験	試験に向けた復習